

日比たけまさ県政レポート 第16号

発行元:日比たけまさ事務所 春日井市庄名町 694-1 TEL:0568-51-7007 発行責任者:日比 たけまさ

2月定例議会開催

2月1日の知事選挙にて162万9千を超える票を獲得し、2期目をスタートさせた大村知事は、2月25日から開かれた2月定例県議会に、新年度予算案や「JK(女子高生)ビジネス」を包括的に規制する青少年保護育成条例の改正案など計82議案を提出しました。

新年度予算案について、知事から「日本一元気な愛知をつくり、日本の未来をつくる」、「若者・女性・子ども・高齢者・障害のある方など、すべての人が活躍し"人が輝くあいち"をつくる」ことを特に念頭に置いたと説明があり、その後、各議員から個別の予算項目について質疑が展開されました。



世界初の燃料電池自動車 ミライ

代表質問 黒川 節男 団長(あま市・海部郡選出 6期)

《Q》 産業労働ビジョン2011-2015の進捗状況は？

《知事》 世界からヒト、モノ、カネを呼び込むため、産業の活性化と人材力の強化、働きやすい環境の整備を進めてきた。今後も、次世代産業の育成、企業立地や研究開発支援、若者の就業対策や女性の活躍などをさらに進める。

《Q》 若者の安定した雇用確保について、県はどう取り組むか？

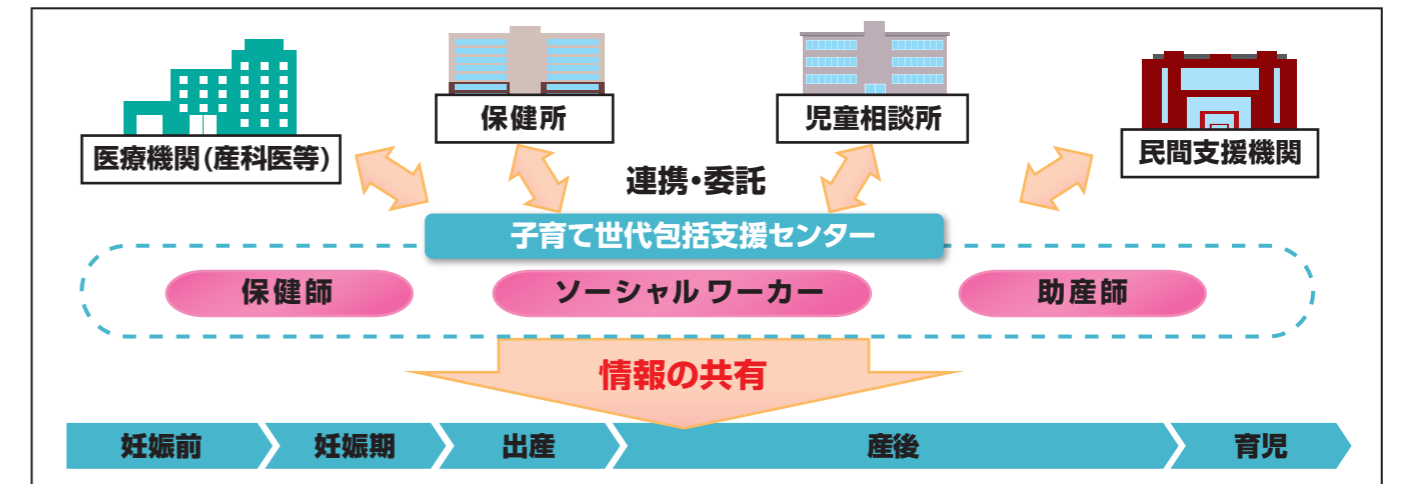
《知事》 愛知労働局と共同し、企業向け、学生向けに講習やマッチングイベントなどで就職支援を展開する。また、福祉やOA業務などの職業訓練や、技能競技大会を通じて若者のスキルアップも支援していく。

《Q》 子育て支援をどう進めるか？

《知事》 子育て家庭の孤立や育児不安の解消を図るため、「地域子育て支援拠点」の整備を進めてきた。4月からは、保健師等が妊娠期から子育て期まで継続して相談・支援ができる「子育て世代包括支援センター」を全自治体で設置できるよう働きかけていく。



生活支援ロボット安全検証センターでの調査



ひび挑戦!

4年間の議員活動の中で、本会議にて16項目、所属委員会にて44項目の質問を行いました。主な質問について以下に示します。(詳細はホームページにてご覧いただけます)

地域振興

高蔵寺ニュータウンの再生、県営名古屋空港の運営状況、愛知環状鉄道の利用促進策と輸送力強化策

医療・福祉

心の悩みへの対策、AED導入10年を振り返って、移動制約者に対する移動策

教育

子どもたちの放課後、小中学校における運動部活動、キャリア教育推進に向けての取組

雇用

在宅就業・テレワーク支援、若年者の雇用促進、障害者雇用への取組

産業

県の営業活動(地域資源の販路開拓、拡大)、航空宇宙産業の復興策、ロボット産業の振興策

環境

環境学習、リニア中央新幹線環境影響評価手続き、レジ袋の削減対策における市町村との連携

防犯

防犯意識の向上、脱法ハーブの対応、猟銃の所持許可



県営名古屋空港



放課後教育



環境学習



春日井駅での早朝活動

平成23年4月。私は愛知県議会議員としての第一歩を踏み出しました。あれから4年、多くの学びを得るなかで「県政の抱える諸問題に対し、強い使命感を持って粘り強く取り組む」という私の決意を申し述べさせていただきます。

人口減少による社会構造の変化、輸出産業に過度に依存した産業構造の転換、統治機構の見直し等、県政の抱える問題は大きなものばかりです。

未来や希望を描くためには、「誇り」と「自覚」を持って、現実的かつ大胆に政策提言をしなければなりません。

時は待ってくれません。前進あるのみです!ひび挑戦!初心を忘れず、活動に挑みます。

事務所を仮移転しました。お気軽にお立ち寄りください。

住所 春日井市庄名町694-1

電話 0568-51-7007

FAX 0568-51-1771

HP <http://www.hibi55.com/>

ホームページもリニューアルしました!



一般質問

塚本 久 議員（名古屋市北区選出 9期）
城北線、地方消滅について

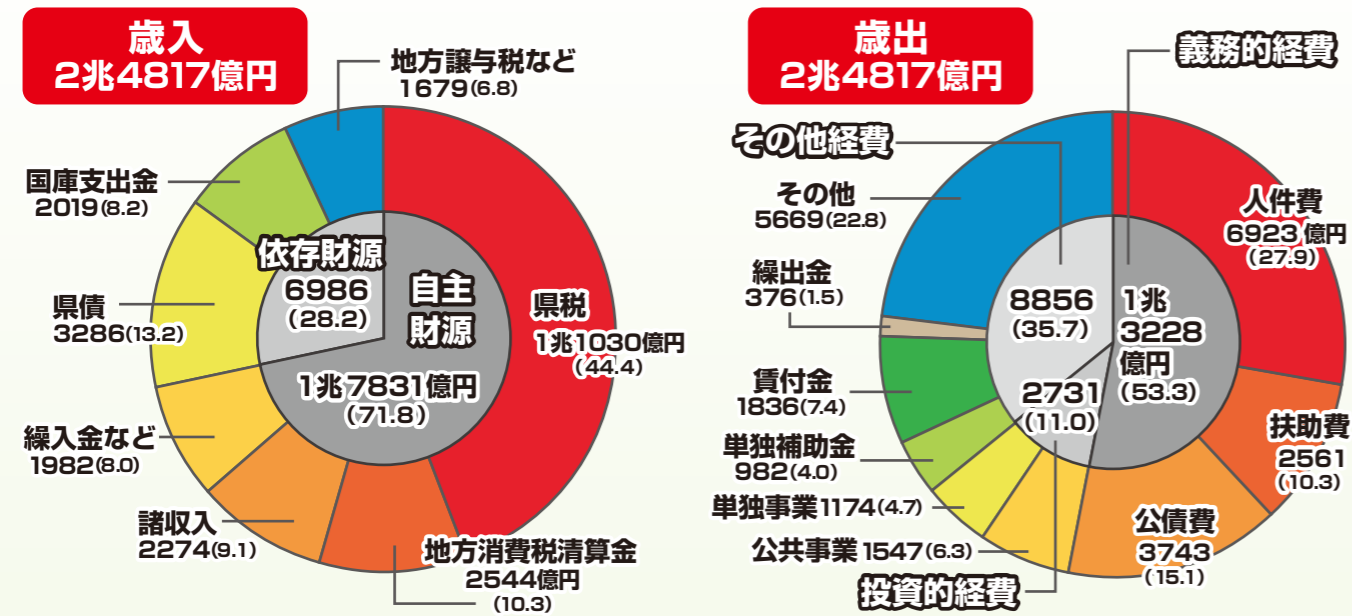
中村 友美 議員（名古屋市緑区選出 7期）
マタニティ・ハラスメント、災害時の妊産婦支援について、
「ブラック企業」・「ブラックバイト」根絶にむけて

近藤 良三 議員（半田市選出 6期）
人口減少社会への対応、公契約条例、教育行政について

仲 敬助 議員（安城市選出 3期）
介護ロボットの開発と普及に関して県の「実用化支援センター」の役割、愛知県第六次行革大綱（しなやか県庁創造プラン）について

かじ山 義章 議員（名古屋市熱田区選出 3期）
青少年の健全育成について

2015年愛知県予算(一般会計)ポイント



水素ステーション日本一へ

「次世代自動車の切り札」として世界初の燃料電池自動車「ミライ」の発売を受け、普及のポイントとなる水素ステーションの整備費4分の1を県が独自補助。国と合わせ、設備の4分の3、運営費の3分の2以上が公費で負担され、2015年度末までに県内で20基整備する方針。

すべての子育てを支援

子育てを応援するため「認定こども園」や、さまざまな小規模保育サービスを支援、放課後児童クラブの運営費補助を倍増する。子育ての相談・支援を行う支援センターや相談拠点を整備する新制度が、4月からスタートする。

2019年にラグビーW杯開催

2019年にラグビーワールドカップ(W杯)が、愛知県、豊田市で開催されることが決定。開催準備組織を立ち上げ、関連グッズやポスターで開催機運を盛り上げる。ラグビーW杯は、サッカーW杯、オリンピックと並ぶ世界3大スポーツイベントで、来日外国人観戦客は30〜40万人と見込まれる。

名駅の“迷路”解消へ調査

2027年のリニア中央新幹線開業に向け、スーパーターミナル化を目指す名古屋駅の人の流れを調査し、複雑で分かりにくいといわれる名古屋駅の乗換利便性向上策を探る。名駅から40分交通圏の拡大をめざし、産業界や観光業界、交通事業者などで「公共交通ビジョン」策定委員会を設置する。

議案質疑

日比たけまさも本会議にて新年度予算案について質問しました。

新年度予算案に計上されている「団地を中心とした地域包括ケアの検討」について、また、平成30年度に実施される精神障害者への雇用義務化の対応について、質問しました。高蔵寺ニュータウンの高齢化対策は待たなしの状況まで追い込まれています。また、精神障害者の雇用については多く企業が「雇いたい不安もある」状態であり、県の支援策について質問しました。



高蔵寺ニュータウン

「団地を中心とした地域包括ケアの検討」を行うこととした考え方について伺う。

本県では、今後、急速に増加する高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域包括ケアシステムを構築するためのモデル事業を、今年度から実施している。

昭和40年代ころから供給が始まった郊外の大規模団地においては、開発時期に入居した方々が一斉に高齢化し、単身高齢者や高齢の夫婦のみの世帯も多く、孤立化などの問題もより顕著に現れており、現在、実施しているモデル事業とは異なったアプローチが求められている。

このため、住まいのあり方やまちづくりにも重点を置いた、新たな団地モデルが必要と考えている。

地域包括ケアシステム

急速に高齢化が進行する中、高齢者が地域で安心して暮らすことができるように、医療、介護、予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる支援体制。

県として団地モデルの目指すべき姿は、どのようなものを想定しているのか、伺う。

団地モデルでは、団地居住者に集中している単身の高齢者や高齢の夫婦のみの世帯の方々が安心して暮らし続けることができるよう、効率的で質の高い医療、介護、予防、生活支援を提供する仕組みを構築してまいりたい。

具体的には、介護等支援が必要になった高齢者の住まいを確保するため、例えばサービス付き高齢者住宅などを整備するとともに、医療・看護・介護のサービス提供事業所などを併設して、24時間対応型の在宅医療・介護を支援する拠点を設けることも必要ではないかと考える。

また、多世代が交流できる場を確保し、元気な高齢者に生活支援などの支え手として活躍いただくなど、支え合いの「まちづくり」の視点も重要である。

他の地域の参考になるようなモデルをつくりたい。

平成30年の精神障害者の雇用の義務化に向け、これまでの取組と成果を伺う。また、平成27年度の取組を伺う。

平成25年度の県内ハローワークにおける精神障害者の就職人数は2,115人(対前年比34.5%増)と大きく増加している。しかし、企業においては、精神障害者の特性や業務の選定等の雇用管理に関するノウハウが不足し、採用をためらう企業も依然として多く見られる。

一方、精神障害者の方は、仕事に対する不安を抱える人も多く見られることから、企業情報等を分かりやすく提供し、就労イメージを明確にすることが重要であり、雇用を促進するためには企業・障害者双方に対する取組が必要であると認識している。

そこで、今年度は、障害者雇用を検討している企業と求職中の精神・発達障害者双方を支援し、就職に繋げる「精神・発達障害者雇用促進プロジェクト事業」を実施し、企業向けセミナーには138社、障害者向けセミナーには80人の方が受講され、20人の方の就職が決定した。

27年度については、今年度の事業に加え、精神障害者の方々の就職をきめ細かく支援するため、新たに合同面接会を5回開催する予定にしている。



質問風景